



曳山祭 宇出津



祭りとともに
 能登に春の訪れ

宇出津曳山祭が15日、16日の両日にかけて行われました。白山、酒垂両神社の氏子が「チョーサーヤー」のかけ声と木遣り唄を響かせながら豪華な人形に飾られた高さ約6メートル、幅8メートルの曳山で町内を引き回しました。曳山は春風が吹く空の下、子どもたちを乗せゆっくりと動き出し、『青山』が始まりました。人形は白山方が「源平合戦屋島の戦い」酒垂方が「上杉謙信の能登攻め」を題材に制作された両氏子の渾身の作品です。午後5時頃にはコンセールのとに両山車が到着し、太鼓グループ「鼓友」による太鼓が披露されました。

祭り2日目の16日は未明から『朝山』が始まります。午前2時から動き出した白山方の山車は酒垂神社の御旅所まで酒垂方の曳山を迎えに行き、2台の曳山が連なつて朝の町を進みます。2日目は前日とは違い、穏やかな日差しのもと、桜舞う港町を引き回します。午後1時過ぎからは『本山』です。祭りもクライマックスとなり、祭りの熱気も最高潮です。響く氏子たちのかけ声は、寒く静かな冬が明け、エネルギーが満ちあふれる春の訪れを祝うかのようでした。